

2018.5.27 三位一体の主日

## 三位一体の神

マタイによる福音 28:16-20

十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

朗読の終わりは次のように唱える。

主に感謝。 主に感謝します。

### 説教

礼拝についておもしろいアプローチがあります。あらかじめ用意したチェックシートをもって、何人かで手分けして片っ端から全国にある教会の日曜礼拝を調査するというものです。そのレポートを読んでいて、聖餐のコップが汚いというマイナス評価があったのにはびっくりしました。

プロテスタント教会の礼拝ではぶどう酒を供されるところはほとんどなく、また、ひとつのコップから飲むというスタイルはほとんどありません。たいていの教会はぶどうジュースが小さなコップで出席者一人ひとりに配られます。仮に30人出席者がいれば30個の小さなコップが必要です。あたりまえですが100人いれば100個のコップになります。係りの人が洗っているのですが、うっかりすることもあるでしょう。聖餐なんですからきれいだ、きたないだと文句をつけずにキリストの聖体をありがたくいただければいいのに、とも思いますが、きたない器はやっぱりまずいでしょう。

項目ごとにレポートした調査結果を一冊の本にまとめてありますが、コラム記事に一杯の水のエッセイがあります。

調査員たるもの礼拝開始30分前には会堂入りするようにしているのだけれど、ぎりぎりになってしまった。おまけに駆け込んだのでとてもノドが渴いた。受付の人に図々しくも、水をくださいといったところ、とてもきれいなコップで冷たい水をいただいた。調査員の彼はとてもうれしかったというエピソードです。なにやらヨハネ4章のサマリアの女を連想するいい小話ですが、わたしは三位一体の喩え話としても上出来な話だとおもいます。

父・子・聖霊 vs コップ・水・きれい、冷たい。

ただ水をのむだけならコップはあったほうがいいけれど、なくてはならないモノでもありません。公園の水道は上に噴き出すタイプの蛇口がついていてコップなしでも水は飲めます。またコップがきたなかがろうが、水がぬるかがろうがノドの渴きは癒せます。

でも、きれいなコップで冷たい水を飲めば「おいしい水」になります。きれい、冷たいの順番をいじっても、冷たいコップのきれいな水になり、これもとてもおいしそうな水です。

三位一体の神の豊かなめぐみをわたしたちが感じ、受け止めることができますように。